

H3002 路面標示

平成30年度 第2回

登録標識・路面標示基幹技能者講習

修了試験問題

修了試験実施日：平成30年11月7日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項：

- (1) 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- (2) 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- (3) 解答の方法は、正解と思うものを1つだけ選び(1、2、3、4、の番号で)解答用紙に記入してください。
- (4) 試験開始から30分が経過するまでの間及び試験終了10分前から終了時刻までは退出することができません。
- (5) 試験問題は試験終了後持ち帰ることができます。
- (6) 質問がある場合は静かに挙手をし、係員の指示に従ってください。
- (7) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- (8) 試験終了後、全標協ホームページで解答を公開します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

問1

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか

- ① 発注者が同じであれば、他の工事で使用した作業手順書を使用する。
- ② 原価管理に係る基本的な知識を有し、常に下請意識をもって行動することができる。
- ③ 施工現場の直接窓口として、常に他業種とのコミュニケーションを心掛け、工事を円滑に推進することができる。
- ④ 工事を進めることを最優先とし、調査・分析は反省の意味で工事を進めた後に行う。

問2

登録基幹技能者に求められるOJTの「指導・教育の基本認識と目標設定」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 部下の適性に合わせた指導育成を行うには、上司の能力レベルから目標を定めるのではなく、部下の能力レベルに合わせた目標を立てる。
- ② OJTで幅広い職務能力の育成のためには、できるだけ外部との接触の機会を提供し、組織外の実態や考え方などに触れて視野の拡大ができる環境を設ける。
- ③ OJTは上司の仕事そのものであるという認識をもって行うことにより、信頼とコミュニケーションが得られる。
- ④ OJTのポイントは、何をどの程度教えるのかを把握した上で、上司の指示どおりやらせることを基本とし、その結果を評価することである。

問3

登録基幹技能者の確保・育成の意義に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設生産現場の生産性向上、建設生産物の品質確保のみならず、基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会拡大が図られる。
- ② 職業能力基準の到達を測る目安は、登録基幹技能者では経験年数10年以上で、高度な技術力を有し、現場管理や工法、技術等について元請管理者と協議できる。
- ③ 工場の生産性の向上や品質、コスト、安全面で質の良い施工を確保するために、基幹技能者は大きな役割を担う。
- ④ 平成26年6月に改正施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」では、その目的及び基本理念に、「公共工事の担い手の短期的な育成及び確保の促進」が加えられた。

問4

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 元請が示す施工計画等から、現場に適した技術面からの施工方法、作業手順、工夫の提案能力を有する。
- ② 分析力・判断力については、物事の重要度、緊急度が判断でき、対象物にまつわる諸条件を的確に捉え、主観的な観点から結論を導きだせる。
- ③ 施工技術及び施工管理に係る基本的知識と優れた技能を有し、リーダー役として部下を指揮、監督して、品質、コスト、安全面で質の高い施工を実現できる。
- ④ 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、KY活動(危険予知活動)、新規入場時の受入教育、作業改善等の一連の安全管理活動ができる。

問5

「建設業の下請取引に関する不公正な取引方法の認定基準」(公正取引委員会事務局長通達)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「元請負人」とは、元請契約における発注者の建設業者であって、その取引上の地位が下請負人に対して優越しているものをいう。
- ② 「下請契約」とは、建設工事を他の者から請け負った建設業を営む者と他の建設業を営む者との間で当該建設工事の全部又は一部について締結させる請負契約をいう。
- ③ 「下請負人」とは、下請契約における請負人のことである。
- ④ 「建設業」とは、元請、下請その他いかなる名義をもってするかを問わず、建設工事の完成を請け負う営業をいう。

問6

労働安全衛生法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 特定元方事業者(元請業者等)の労働者及び関係請負人の労働者の作業が同一の場所において行われることによって生ずる労働災害を防止するために、統括安全衛生責任者を選任し、その者に元方安全衛生管理者の指揮をさせる。
- ② 総括安全衛生管理者は、安全管理者、衛生管理者又は救護に関する技術的事項を管理する者を指揮するとともに、労働者の危険又は健康障害を防止するための措置に関すること等の、統括管理を行わなければならない。
- ③ 労働基準監督署長は、安全管理者の増員又は解任を事業者に対し命ずることができる。
- ④ つり足場、張出し足場又は高さが2m以上の構造の足場の組立て、解体又は変更作業では、作業主任者の配置が必要である。

問7

道路法に関する記述のうち、最も適切なものはどれか

- ① 道路法の直接的な目的は、道路網の整備を図ることではない。
- ② 道路標識は、道路と一体となってその効用を全うする施設又は工作物に位置づけられていない。
- ③ 都道府県道又は市町村道に設ける道路標識の寸法・文字の大きさは、標識令に定められており、条例で定めることはできない。
- ④ 通行規制に関する権限は、都道府県公安委員会が有しているので、道路管理者は道路の通行を禁止し、又は制限することはできない。

問8

道路交通法に定める用語の意義に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「道路」とは、道路法第2条第1項に規定する道路、道路運送法第2条第8項に規定する自動車道及び一般交通の用に供するその他の場所をいう。
- ② 「車両通行帯」とは、車両が道路の定められた部分を通行すべきことが道路標示により示されている場合における当該道路標示により示されている道路の部分进行いう。
- ③ 「道路標識」とは、道路の交通に関し、規制又は指示を表示する標示板をいう。
- ④ 「道路標示」とは、道路の交通に関し、規制又は指示を表示する標示で、路面に描かれた道路鋸、ペイント、石等による線をいう。

問9

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切な記述はどれか

- ① 案内標識「方面及び方向の予告(108-A,B)」の設置場所については、高速道路等以外の道路の交差点の手前300m以内の地点における左側の路端、車道の上方又は中央分離帯となっている。
- ② 昭和35年に総理府・建設省令第3号として標識令が制定され、このとき初めて道路標示と区画線の具体的な様式が全国統一された。
- ③ 平成29年の改正で、車両が徐行すべきこと又は前方の交差道路が優先道路であることを意味する規制標識について、従来の様式を廃止し、「徐行」という文字の下に「SLOW」という英語を併記する様式を新設した。
- ④ 平成26年4月の改正では、高速道路等以外の道路に接して設置されている利便施設を高速道路において予告することができるように、案内標識「サービス・エリア、道の駅の予告(116の2-C)」が新たに追加された。

問10

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切な記述はどれか

- ① 自転車ネットワーク計画は、道路管理者や都道府県警察、地域の関係者等の参画の下、市区町村が様々な行政課題の中で総合的に判断して策定するものであり、地域の自主性を尊重することが大前提である。
- ② 自転車道、自転車専用通行帯及び車道混在には、道路標示「普通自転車歩道通行可(114の2)」を設置するものとする。
- ③ 自転車のピクトグラム及び併記する矢印は、矢羽根型路面表示と同様に自転車の幅を踏まえ、幅0.75m以上とし、外側線に重ならないように設置することが望ましい。
- ④ 矢羽根型路面表示の夜間の視認性を向上させる必要がある場合には、縁に白線(高輝度タイプ)を設置する等の対応をするものとする。

問11

「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路附属物等の設置に当たっては、市街地・郊外部、樹林地、田園地域、海岸沿い、といった景観的基調に合わせて、それぞれ同一の形状・色彩のものとすることが基本である。
- ② 道路附属物等は経年的な劣化や、事故等による変形又は破損が想定される施設であるため、点検や維持修繕の容易性を考慮した素材や形状を選定することが求められる。
- ③ 道路舗装で一般的に用いられる赤色、青色、緑色の基本色については、安全性を確保するために高い明度、高い彩度を使用すると明るい印象を与えるため有効である。
- ④ 標識柱は、道路情報板、道路標識などを支える構造物であり、道路情報板、道路標識などの視認性を阻害するものであってはならないため、その存在感を極力低減する必要がある。

【施工管理・作業計画】

問12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設物の良し悪しは、建設物をつくる過程における管理が重要であり、製造業の工場生産における製造管理を「生産管理」と呼び、建設工事における管理を「施工管理」と呼び区別している。
- ② 登録基幹技能者は、他業者との調整や、技能者を統括する立場で施工管理の内容を理解しておくことが、工事を適切に遂行する上で重要である。
- ③ 施工管理とは、品質管理、原価管理、工程管理、環境管理に区分され、工事現場の四大管理と呼ばれている。さらに、安全管理を加え五大管理と呼ぶ場合もある。
- ④ 施工管理の環境管理とは、工事による騒音や振動、水質汚濁など環境に与える影響を最小限にする管理である。

問13

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工要領書は、工事開始後に予想される施工上の問題を、工事の進捗につれてどのように対処すべきかを事前に検討するものである。
- ② 施工要領書は工事種別ごとに作成し、一般常識的な事項については省略する。
- ③ 施工要領書は、経済性と品質の維持向上に重点を置き、現場環境、設備内容、工程等のさまざまな条件を考慮して適切な施工方法を選定する。
- ④ 作業手順書の作成上の留意点は、現場の実情に合ったものであり、労働安全衛生法等の法令に準拠し、わかりやすく具体的で、かつ簡潔に表現することであり、急所の数は多ければ多いほどよい。

【工程管理・資材管理】

問14

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 労務の山崩しとは、作業の余裕時間を活用し、全体工程に遅れがでない範囲で労務を平準化させるために行う工程管理の手法である。
- ② ガントチャートは縦軸に作業、横軸に達成度を表し、横軸の各作業の完了点を 100% として、その達成度を表示するものである。
- ③ クリティカルパスとは、各作業において、最早開始時刻で作業を始め、最遅終了時刻で完了するときの最大余裕時間(トータルフロート)がゼロとなる経路である。
- ④ グラフ式工程表は、通常の工事では累計出来高曲線は S 型の曲線となり、毎日の出来高が一定であっても同様の曲線となる。

問15

資材管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 一般公道を使用した陸上輸送については、道路管理者、警察、地元関係者と協議し、法令上必要な措置をとった計画とする。
- ② 資材管理の目的は、規格・仕様に適合した品質の資材を適正価格で発注し、それぞれの資材の形状等に合わせた収納優先の保管をして工事を円滑に運営することである。
- ③ 資材の発注に当たっては、資材の搬入方法は現場の状況によって変わるので、あらかじめ資材置場の確保が可能か、周辺道路事情や大型車両乗り入れ規制の有無の調査が必要である。
- ④ 受入検査では、依頼内容と納品書等の内容が一致しているか、搬入資材に仕様の相違や数量不足、破損や変質等の異常がないか等について留意する必要がある。

【原価管理】

問16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 見積原価の管理は、請負条件を明確にし、不明な点は質疑して、限られた時間の中で、過去の実績等の活用、単価調査などにより見積原価の精度を上げることである。
- ② 実行予算の管理は、現場条件に合わせた施工計画を作成し、実行予算の複数案を検討することでコストの削減に結びつける。
- ③ 「標準歩掛り」とは、ある工事目的物の1単位の施工に要する材料や労務、機械器具の数量を数値化したものである。これに対し「歩掛り」とは、積算の作業に便利のように、過去の実績情報を基に標準的な値を数値化したものである。
- ④ 予算実績管理は、実行予算を枠組みとして発注し、資機材や労務を管理し、実行予算と実績を比較検討しながら、予算内に収めるように施工管理することである。

問17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 土木構造物は、一品生産で個別性が強く、評価の対象となる特性は多様である。設計図書には、JIS規格や各種基準、仕様書等の内容の引用や工事ごとに定める特記事項が盛り込まれる。
- ② 「性能規定」とは、求める品質を明示し、それが満たされていればよいとするもので、施工に関わる技術革新や経済・社会の変化への柔軟な対応が可能である。
- ③ 「仕様規定」とは、特定メーカーの製品名を設計図書に明記したり、施工方法を指示したりするなどして具体的に細かく定めるもので、求める品質が具体的に表現される。
- ④ 最終的な品質とは、工程ではつくりこめないのが最終検査で実現する。

問18

総合的品質管理(TQC)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 品質の確保や向上には、発注者や建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者等の中で品質に対する考え方を共有することが必要である。
- ② TQC とは、製造工程における品質管理を進める上で、経営者や関係者全体が連携しマーケティングや設計、デザイン等も含めた管理を効果的に実施することである。
- ③ TQM とは、総合的品質管理における品質管理だけに限定せず、組織全体として統一した品質管理、サービス、価格等の目標への取組を、経営戦略へ適用した全社的品質管理である。
- ④ 日本の建設現場における高品質の源は、ボトムアップではなく、トップダウン方式による迅速な品質改善活動によるところが大きいと言われている。

問19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 近年の労働災害減少の要因として、労働安全衛生法等の安全関係法規の整備、安全施工に関わる各種技術基準の整備、作業手順書の整備等が挙げられる。
- ② 建設業は労働分散型であり、装置型産業の製造業よりも安全対策が難しく、その理由は作業内容が日々変化し、他業種の専門工事業者が入場し、単品受注生産で、雇用期間が短いなどが挙げられる。
- ③ 熱中症予防対策としては、作業環境管理、休憩場所の整備、作業時間の短縮、熱への順化、水分及び塩分の摂取、通気性のよい服装の着用等により効果があると言われている。
- ④ 労働災害の発生頻度を表す強度率とは、労働損失日数を延実労働時間数で除した数値を1,000倍にしたものであり、災害の重篤度を表すものである。

問20

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公道上作業における交通事故対策では、作業帯内に通行車両の進入を防止するため、囲いや柵、ガード等の保安設備を設置し、誘導員を配置する。
- ② ヒューマンエラー対策は、作業員への教育・訓練、現場全体が一体となった安全意識の向上などを図ることで発生を抑制することができる。
- ③ 玉掛け作業による危険防止対策は、作業開始前に玉掛けワイヤーを点検し、ワイヤーは2点吊り、荷崩れを抑える介錯ロープをつけ、地切りはしないことである。
- ④ 移動式クレーンの転倒防止対策は、吊り上げる物の最大重量、クレーン設置場所から吊り上げる物までの距離等を考慮して、使用するクレーンの種類・能力等を選定することである。

問21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 区画線の種類は、「車道中央線(101)」、「車線境界線(102)」、「車道外側線(103)」など8種類がある。
- ② 区画線のうち「車道中央線(101)」、「車道外側線(103)」は、それぞれ道路交通法上の道路標示「中央線(205)」、「路側帯(108)」とみなされる。
- ③ 標識令に規定される「区画線」と「道路標示」のほか、交通の安全と円滑の確保のために用いられている法定外の路面表示があり、これらを総称して路面標示という。
- ④ 路面標示用塗料で表示する路面標示は、区画線では白色、規制標示では黄色又は白色、指示標示では白色が用いられている。

問22

路面標示の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「路上駐車場(108)」は、区画線である。
- ② 「平行駐車(112)」は、区画線である。
- ③ 「前方優先道路(211)」は、指示標示である。
- ④ 「転回禁止(101)」は、規制標示である。

問23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車線境界線(102)」を設置する場合の1車線の最小幅員は、2.75m、最大(緩速車線相当分含め)4.5mとする。
- ② 車線の幅員については、「車道中央線(101)」が1本の場合は線の中心から、二重線(複線)の場合も各々の線の中心から計測する。
- ③ 車線幅員は、2.75m、3.0m、3.25m、3.5mの4段階に定められている。
- ④ 道路は、歩行者、軽車両、高速車の区分が構造上明確に分離されていることが望ましい。構造的な分離ができない場合、路面標示による分離を図るのが効果的である。

問24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 中央帯に設置する側帯の幅員は、第3種、第4種ともに0.25mである。
- ② 右折車線の幅員は、標準で2.75m～3.25mであるが、特例として大型車が極めて少ない場合は2.5mまで変更できる。
- ③ 車線幅員と車線数に関しては、交差点流入部の走行車線は、これに接続する単路の走行車線数より少なくしてはならない。
- ④ 「車道外側線(103)」は、原則として、全ての道路に設置する。ただし、この場合の最小幅員(一方通行の場合)は2.75mとする。

問25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道中央線(101)」は車道の幅員が5.5m以上の車道の中央に設置する。
- ② 4車線以上の車道には「車道中央線(101)」を実線で表示する。また、交通処理上強調する場合は、二重実線を用いるとよい。
- ③ 「車道外側線(103)」の幅は0.15m～0.20mの白色の実線を用いる。
- ④ 「歩行者横断指導線(104)」は、一般に破線又は道路鋸等により表示する。

問26

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「停止禁止部分(107)」の規制は、道路標識の定めがないため、道路標示のみを設置する。
- ② 法令上の要件として、道路標識及び道路標示の双方が必要と定められているのは、「横断歩道(201)(信号未設置場所)」、「自転車横断帯(201の3)(信号未設置場所)」、島状の施設以外の「安全地帯(207)」である。
- ③ 道路標識との関係で、原則標示で必要に応じて標識を設置する種類は、「駐車禁止(104)」、「追越しのための右側部分はみ出し通行禁止(102)」、「最高速度(105)」がある。
- ④ 「進行方向別通行区分(110)」は、交差点における道路及び交通の状況等を勘案し、交差点手前に設置する。区間の長さはおおむね30m～50mとする。

問27

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「二段停止線(203の2)」は、白色の実線及び文字により表示し、停止線の間隔は6.0m～8.0mとする。
- ② 「斜め横断可(201の2)」は、時間を限定して行う場合と終日行う場合の表示方法が異なる。
- ③ 「自転車横断帯(201の3)」は、幅0.15m～0.30mの2本の白実線で表示し、横断歩道に接して表示する場合は、横断歩道との間に5cmの間隔を空けるものとする。
- ④ 一度に渡り切るべき「横断歩道(201)」の長さは、最大で15m程度とするのが望ましい。15mを超える場合は、横断歩道の中に安全地帯を設けることが望ましい。

【専門 道路標示の材料・施工】

問28

路面標示用塗料 JIS K 5665-2018の1種塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種(常温)塗料Bにおける乾燥硬化は、水の揮発に続いて造膜助剤(水系樹脂同士を融着させるための低揮発性有機溶剤)の作用により塗膜が硬化する。
- ② 1種(常温)塗料Aの低温造膜性は、5℃の条件において塗膜形成に異常がないことと定められている
- ③ 1種(常温)塗料のガラスビーズ固着率(%)は90以上と定められている。
- ④ 1種(常温)塗料の粘度KU値は70～100と定められている。

問29

路面標示用塗料 JIS K 5665-2018の2種塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種(加熱)塗料Aの耐水性は、塗膜の水分によるふくれ、はがれ、しわ、色の変化などに対する試験である。
- ② 2種(加熱)塗料Bの塗膜中の鉛の定量(黄色に限る)は、質量分率で0.06%以下と定められている。
- ③ 2種(加熱)塗料Aの密度(23℃)g/cm³は、2.3以下と定められている。
- ④ 2種(加熱)塗料の加熱残分試験は、揮発成分を除いた塗膜形成成分(樹脂、顔料、添加剤等)の量を調べ、揮発成分との割合を判定する試験である。

問30

路面標示用塗料 JIS K 5665-2018の3種塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)塗料の拡散反射率(白に限る)(%)は75以上と定められている。
- ② 3種(熔融)塗料の耐アルカリ性は、コンクリート路面及び各種路面のアルカリ(路面凍結防止剤など)に対する試験である。
- ③ 3種(熔融)塗料の塗膜中のクロムの定量(黄色に限る)は、質量分率で0.03%以下と定められている。
- ④ 3種(熔融)塗料の黄色度(白に限る)は、値が(－)になると黄色味を帯び、(＋)になると青色味を有するので、その範囲を定めている。

問31

路面標示用ガラスビーズ JIS R 3301-2014に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ガラスビーズの鉛含有量は200mg/kg 以下と定められている。
- ② 屈折率2.2以上のガラスビーズは、屈折率1.9以上のガラスビーズに比べ、雨天時はより高い視認性が得られる。
- ③ ガラスビーズのクロム含有量は200mg/kg 以下と定められている。
- ④ ガラスビーズの比重は2.4～2.6と定められている。

問32

路面標示用塗料 JIS K 5665-2018の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① エアスプレー方式のスプレーガンには内部混合式と外部混合式とがあり、塗料を霧化して噴出する。
- ② 1種及び2種塗料の常温・加熱工法では、一般にプライマーは塗布しない。
- ③ 常温・加熱工法の塗装作業は、塗料及びガラスビーズの圧力、塗料温度によって塗膜厚とガラスビーズの量が変わるため、ラインマーカの走行速度を調整しながら施工する。
- ④ 2種(加熱)塗料は高粘度であるため、熱交換機を通して50～80℃に加熱し、粘度を低くして塗装する。

問33

路面標示用塗料 JIS K 5665-2018の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)塗料の施工時の熱劣化現象は、主として熱分解、酸化及び蒸発などに起因する。
- ② 熔融式工法では、道路に塗装した後、約3分以内に交通解放できる速乾性が要求される。
- ③ 熔融式工法では、排水性舗装の空隙確保のために噴射式・フローコーター式が用いられている。
- ④ 熔融式工法では、路面上の微細な塵芥を被覆し、湿潤化することにより接着力を向上させるために、プライマー塗布後、直ちに塗装する。

問34

高視認性路面標示の施工に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか

- ① 非リブ式路面標示では、騒音対策として、リブの高さを低くしたり、リブの間隔を変えたり、リブをランダムに並べるなどの対策がとられている。
- ② ガラスビーズの屈折率2.0を境界とする屈折率の異なるガラスビーズの混合物を路面標示表面に散布、固着させる全天候型路面標示がある。
- ③ 全天候型路面標示は、ガラスビーズの屈折率を小さくすることで、降雨時の再帰反射性能の向上を実現している。
- ④ 塗膜表面に縦溝や横溝を形成したり、塗膜表面を凹凸のある粗い面に仕上げることでガラスビーズを露出させ、雨天時の視認性を確保したリブ式路面標示がある。

問35

路面標示の点検・塗替えに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 都道府県公安委員会が設置する規制標示及び指示標示は、法令の規定に基づいて交通規制を実施する場合の具体的な意思を表示する手段である。
- ② 点検により、不鮮明部分が当該区間の半分程度に達すると認められた場合又は夜間の視認性が劣る場合は、速やかに塗り替える必要がある。
- ③ 路面標示は、設置後においても汚れ、剥離、その他の理由によりその効用が損なわれることのないように、常に良好な状態に保たれるよう配慮しなければならない。
- ④ 積雪地域で融雪後、毎年塗り直しが必要となる道路では、特に色差を考慮して工法を選択しなければならない。

問36

路面標示の塗り替え基準等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 剥離率の測定は、摩耗、剥離、劣化等による塗膜の欠損部分の割合を、全体画像から測定する。
- ② 拡散反射率の測定は、白色標示の明るさ、白さを評価する値で、数値が高いほど明るく、白いことを表している。
- ③ 目視評価ランク3の評価内容は、「標示全体が維持されており、摩耗が少なく、剥離が見られない」である。
- ④ 白の標示では、夜間の視認性に必要な反射輝度は $100\text{mcd}/\text{m}^2\cdot\text{lx}$ を超える平均値が必要と言われている。

問37

路面標示の塗替えの判断に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 夜間においては、路面標示の視認性が低下し、不安感を増すことから、視認性を高める必要がある。
- ② 視認性の高い路面標示は、運転者の快適性維持・向上に大きく寄与し、道路構造令を遵守させる上でも有効に機能する。
- ③ 視認性の向上、特に夜間視認性の向上は、運転者が安全で快適な運転をするために必要不可欠な要件となる。
- ④ 路面標示の視認性が低下すると、標示の指示に従わない違反車が増加する傾向にある。

問38

路面標示の消去に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ウォータージェット工法は、従来の工法で懸念されていた騒音・粉じん発生・延焼等の少ない工法である。
- ② ブラスト工法は、比較的大型で特殊な設備を必要とし、使用したショット、珪砂などの回収に時間と労力を要するが、安価に施工できる。
- ③ 燃焼法はバーナーによる燃焼方式であり、バーナーで加熱溶融して塗膜を取り除く方法であるが、路面を損傷することがある。
- ④ 路面標示の消去は、施工中の一般交通への支障の程度、作業時の騒音、振動、粉じんの発生などの問題もあるので、路面の状況、道路環境、工費等を考慮して工法を選択する。

問39

法定外の路面表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 普通自転車専用通行帯等のカラー舗装は、全部分ではなく、一部分に実施してもよい。
- ② ハンプ路面表示の形状は三角形を標準とし、使用する色相は視認性を確保するため黄色を基本とする。
- ③ ゾーン・エリア対策にてカラー舗装を短区間で行う場合は、ゾーンの入口及び交通規制の始点部に合わせ、舗装材質については歩行者等の滑り転倒防止に配慮した材質とする。
- ④ バスレーンのカラー舗装を行う道路に設置されているバスベイについては、バスベイ内の違法駐車の実態を踏まえて、カラー舗装をすべきか判断する。

問40

法定外の路面表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車両通行帯(109)」及び「進行方向別通行区分(110)」の規制標示が設置されている場所においては、必要に応じて「進行方向別通行区分」の予告表示を行うこととする。
- ② ドットライン表示は、原則として、信号機のない交差点で車道外側線等を交差点内に破線で延長し、自動車の通行部分を明示することが望ましい場合に設置することができる。
- ③ 「止まれ」の文字表示は、縦表示を原則とし、標準的な寸法及び位置図が定められているため、道路の状況等に応じて縮小することはできない。
- ④ ゾーン30における路面表示は、「ゾーン」を上段、「30」を下段とする2段表示とし、文字色は白色とする。